

●しちがはままち

七ヶ浜町

七ヶ浜町の被害状況



最大震度 5強

浸水面積 4.8km²

最大浸水深 12.1m



全壊 674棟

半壊 650棟

一部損壊 2,605棟



注① 死者 97人

行方不明者 2人

負傷者 不明

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.11下段に記載の資料に準拠
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

新たな津波対策もなされた粘り強い防潮堤

●さんてんいちひがしにほんだいしんさいでんしょうばんししょうぶたかいがんぼうちようてい

3. 11東日本大震災伝承板

「菖蒲田海岸防潮堤」

菖 蒲田浜地区は、昔ながらの風光明媚な場所です。国内で3番目に古い歴史をもつ菖蒲田海水浴場を有し、夏は多くの海水浴客で賑わっていました。しかし、津波により町面積の3割以上が浸水。同地区も甚大な被害を受けたのです。

そこで漁港や道路などの復旧と併せて菖蒲田海岸防潮堤を再整備。復旧した防潮堤は、数十年から百数十年に一度の割合で発生する津波に備えた堤防高とし、今後起こりうる津波や高潮から命や財産を守るため、新たな津波対策として高さT・P・(東京湾平均海面)+6.8mで設計されました。また津波が堤防を越えても破壊されにくい、コンクリートを覆いかぶせた粘り強い構造が特徴です。しかしすべての津波を防御することは難しく、巨大津波に対しては「逃げる」ことが命を守ることに「つながる」と伝える伝承板も設置しています。

そこで漁港や道路などの復旧と併せて菖蒲田海岸防潮堤を再整備。復旧した防潮堤は、数十年から百数十年に一度の割合で発生する津波に備えた堤防高とし、今後起こりうる津波や高潮から命や財産を守るため、新たな津波対策として高さT・P・(東京湾平均海面)+6.8mで設計されました。また津波が堤防を越えても破壊されにくい、コンクリートを覆いかぶせた粘り強い構造が特徴です。しかしすべての津波を防御することは難しく、巨大津波に対しては「逃げる」ことが命を守ることに「つながる」と伝える伝承板も設置しています。



防潮堤を整備した時期と同じ平成29年(2017)、菖蒲田浜復興道路を竣工。海岸沿いの県道塩釜七ヶ浜多賀城線の復興道路は、震災時の教訓を踏まえ、避難車両がスムーズに通行できる道幅を確保し整備された



「避難体制」「まちづくり」「防御施設」が三位一体となった、多重型津波防災対策を講じている七ヶ浜町。防潮堤の近くには菖蒲田浜海浜公園が造られ、ほかにも津波防災公園緑地や防災林が整備された



震災の経験を風化させることのないよう、後世に「ながく」伝承していくこと、また今後発生しうる災害などに対する、迅速な避難行動の啓発を目的として県内の各海岸に伝承板を設置している

その他

(防潮堤)

車椅子OK

※伝承板は段差なし

施設DATA

●さんてんいちひがしにほんだいしんさいでんしょうばんししょうぶたかいがんぼうちようてい

3.11東日本大震災伝承板 —菖蒲田海岸防潮堤—

📍なし MAP P115C3

- 📍七ヶ浜町菖蒲田浜地区
- 📍仙台東部道路仙台港北ICから車で20分
- 📍📺見学自由
- 📍Pあり(大型バス:あり) ※海水浴シーズンは有料

考えてみよう

Q1 L1津波という比較的発生頻度の高い津波は、新しい海岸防潮堤で防御できる想定ですが、L2津波という東日本大震災クラスの大きな津波では、完全に防御することができない想定のため、命を守るためには迅速な避難行動が不可欠です。そのため菖蒲田浜地区周辺には、海岸防潮堤の内側に防災林が整備されています。それはなぜでしょうか？

A1 津波の遡上を遅らせ、その間に少しでも海から離れた場所に逃げられるよう、避難時間を稼ぐ効果がある。

注① 出典：七ヶ浜町の復興概況、令和3年4月1日、七ヶ浜町